



# チャレンジ！一歩前へ

郡山市立大槻小学校  
学校だより No.62  
令和4年 2月14日  
文責：校長 酒井 健

## ◇「大空に舞い上がれ！マイ風！」

先週、校長室にいた時、校庭から子どもたちの楽しそうな声が……。校庭に目をやると、1年生の子どもたちが「風揚げ」をしていたのです。

大槻小学校は、体育館側からの風が強く吹くこともあり、子どもたちの風はぐんぐん舞い上がっていました。どの子も笑顔いっぱいでした。本当に微笑ましい風景が、校庭に広がっていました。その様子を見ていて、目を細くして笑顔になっている私がいきました。



## ◇「言葉のもつ力」……子どもたちの感性はすばらしいです

言葉って、すごいな……と常々、感じています。

その子のもつ感性が文字の一つ一つに表れる……。詩、生活文、読書感想文、川柳……。表現の仕方は様々ありますが、言葉からは、その子の想い、願いなども感じ取ることができます。

右の写真は、大槻小の5年 熊田斗真くんの書いた詩を柏屋「子供の夢の青い窓」（詩集）に応募したところ、大変すばらしいという評価をいただき、表彰を受けた写真です。9月の出来事です。この日は校長室で記念パネルの贈呈も行われました。

柏屋の代表取締役会長の本名善兵衛さん、「青い窓」事務局の方々が大槻小にお越しになりました。熊田斗真くんの作品はこちら〔→〕です。

また、最近では、「令和3年度 明るい町づくり 推進運動標語・川柳コンクール」で3名の入賞がありました。

6年 伊藤 葉菜さん

「ありがとう その一言で つながる輪」

5年 渡邊 智秋くん

「ありがとう 笑顔あふれる 家族愛」

4年 大内 結生さん

「かたあしの 私に手をかす クラスメイト」

子どもたちの言葉は光っていますね。その他にも読書感想文や生活文などにおいても、たくさんのすばらしい賞をいただいている大槻小の子どもたちです。言葉が、そして感性が、豊かに膨らんでいます。



【撮影の時だけマスクを外しました】

マッチ  
熊田 斗真

マッチは、自分の心と同じ  
つまり、心は火だ  
例えば、試合をしていて  
せつたいに勝つという  
気持ちが多いと  
火が炎になる  
マッチのような心をみんな  
もっている  
その火を  
炎にするのは  
自分だよ

## 校長のひとりごと

1年生の風揚げの様子を見ていて、自分の子どもの頃の様子を思い出しました。私は、小学校当時、虎丸町に住んでいました。近くには、「原っぱ」（当時、そう呼んでいました）があり、そこは、私たち子どもの遊び場でした。野球をしたり、ブーメラン飛ばしをしたり……。そして、冬場には「風揚げ」をしたりしていました。どれだけ、遠くに、高く飛ばせるか、友達と競争をしていました。昔は風が強かったのでしょうか？たこ糸をつなぎ合わせて、どんどん遠くへ飛ばしていたのを思い出します。ある日、風が小さく見えるほど遠くまで飛ばせていた時、ぴつんと切れて、風ははるか彼方へ……。その「原っぱ」は、今はマンションが建ち並んでいます。あの風はどこに行ったのでしょうか？泣きながら家に帰ったという、純粋な少年のお話でした。

